

広告市況の改善が放送事業に寄与 成長分野のアニメ、配信も好調に推移 連結営業利益は上期過去最高、通期の業績予想を上方修正

売上高

708億
6千3百万円

(前年同期比+17.7%)

営業利益

45億
8百万円

(前年同期比+124.3%)

親会社株主に帰属する四半期純利益

30億
3千7百万円

(前年同期比+187.5%)

1株当たり中間配当金

15円

(年間配当予想40円)

総資産

1,267億
3千1百万円

純資産(自己資本比率)

889億
3千4百万円

(70.0%)

配当方針

グループの成長と企業価値の増大、長期的な経営基盤の充実に向けた内部留保とのバランスを考慮し、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績に応じた利益還元を努めます。

1株当たりの配当金は年額20円を下限とした安定配当に加えて、業績に連動した配当として、連結ベースで配当性向30%を目標としています。

2021年度通期

連結業績予想

売上高

1,445億円

(前年同期比+10.9%)

営業利益

70億円

(前年同期比+33.9%)

※2021年度の期首から「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。業績数値および連結業績予想の対前期増減率は2020年度に同基準を適用したと仮定して算出した参考値との比較となります。

地上波放送事業

売上高

527億
1千8百万円

(前年同期比+22.5%)

営業利益

27億
3千6百万円

(前年同期比+162.1%)

放送事業(地上波放送、番組販売)

放送事業収入(売上高)の合計は21.1%増の404億5千万円となりました。番組提供の sponsor から得られるタイム収入は、系列局を通じた全国放送(ネット部門)において、単発型の広告出稿が好調に推移したものの、番組編成を一部改めた4月以降の通常放送(レギュラー番組)の提供金額が引き下がり、前年に比べて減収となりました。これに加え、特別番組(特番)部門では、「東京オリンピック」の売上が当初の想定から大きく伸びたほか、昨年は中止となった大型スポーツ案件が今年は無事に開催され、セールスも好調に推移したことから前年に比べ大幅増となりました。スポット広告は、夏に一時的に不調となったものの、コロナでのテレワークや在宅需要の高まりによって『情報・通信』『飲料』『外食・各種サービス』を中心に好調が続きました。地方放送局向けの番組販売では、オリンピック・パラリンピック編成の影響などにより、当社から番組を購入する需要が減少しました。

ライセンス事業(アニメ、配信ビジネス、イベントなど)

ライセンス収入(売上高)の合計は27.1%増の122億6千7百万円となりました。アニメ部門は、中国企業に対する配信許諾や北米におけるNARUTOの商品化権などの海外展開が好調に推移しました。放送番組や放送以外の独自コンテンツを課金プラットフォームなどに販売する配信ビジネス部門は、前年と異なりコロナの影響を最小限に抑え、ドラマの制作が順調に進んだことで、国内の配信事業による収益が大幅増となりました。また、ビデオグラムでは「30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい」などが貢献して増収となり、映画は「花束みたいな恋をした」がヒットしました。イベント部門はコロナの影響によりいくつかの計画に変更が生じましたが、新規のオンラインイベントなどを実施し、増収となりました。

コミュニケーション事業

売上高

22億
1百万円

(前年同期比+18.2%)

営業利益

1億
7千1百万円

(前年同期比+35.3%)

コミュニケーション事業では、テレビ東京と共同で行っている動画広告等の売上が前年を上回ったほか、キャラクターEC事業が昨年に続き好調に推移しました。また、動画配信にかかる受託事業も好調となりました。

放送周辺事業

売上高

181億
4千1百万円

(前年同期比+3.0%)

営業利益

18億
9千4百万円

(前年同期比-1.1%)

テレビ東京ダイレクト(通信販売関連)は、「虎ノ門市場」が堅調に推移したものの、「なないろ日和!」での定番商品の不振とゴルフ商材の品不足の影響で、前年好調だったテレビ通販の売上が減少しました。テレビ東京ミュージック(音楽出版関連)は、アニメ楽曲を中心とする国内印税収入が売上に貢献するとともに、ヨーロッパ地域でもアニメ関連の海外印税が好調に推移しましたが、サブスクリプションサービスによる印税収入が好調だった前年の水準までは届きませんでした。エー・ティー・エックス(CS放送関連)は、アニメ専門チャンネル「AT-X」の加入者数が減少傾向であるものの、ライセンスなどで放送売上の減少をカバーし、増収となりました。

BS放送事業

売上高

85億
8千9百万円

(前年同期比+17.6%)

営業利益

16億
4千8百万円

(前年同期比+85.1%)

放送事業(BS放送)

放送収入のうちレギュラーは、新番組に伴う出稿、さらに単発通販番組の引き合いが好調でした。また、コロナ禍で昨年中止となったスポーツイベントが開催されたことや、新規1社特番が決まったことなどにより、特番も好調でタイム収入は前年を大きく上回りました。スポット収入も、コロナ禍の影響を大きくは受けず、通販スポンサー以外の新規スポンサーの獲得や効率的なCM枠の運用で、前年を大きく上回りました。

ライセンス事業(配信ビジネス、イベント他)

ライセンス部門では、緊急事態宣言下でイベントの休止など影響を受けましたが、映画の大ヒットがそれを補いました。また、ドラマ等オリジナル番組の配信プラットフォームなどへの番組販売や通販事業が堅調でした。